

# 新たな都市像を提唱

## 住まい 自分流

現在、大都市では「グロ  
ーバリズム」の名のもと、  
さまざまな都市開発が進め  
られている。しかし、それ  
らの支えとなっている、お  
金・効率の追求は、必ずし  
も良い結果を生むばかりで  
ない。大部分の都市開発で  
は、残念なことに、ハード  
へのコスト意識（建設費や  
設備投資費）は高いが、ソ  
フトへのコスト意識（調査  
力、提案力、技術力などの  
全体構想費）が低いことが、  
その一因と考えられる。

ソフトへの観点から、今  
後求められている都市像と  
して考えられることは、「イ  
ンターナショナル+アイデ  
ンティティー」ではないだ  
ろうか。つまり、「国際的  
であり、かつ独自性を持つ  
都市・街・村」である。

# 調和の中に獨創性

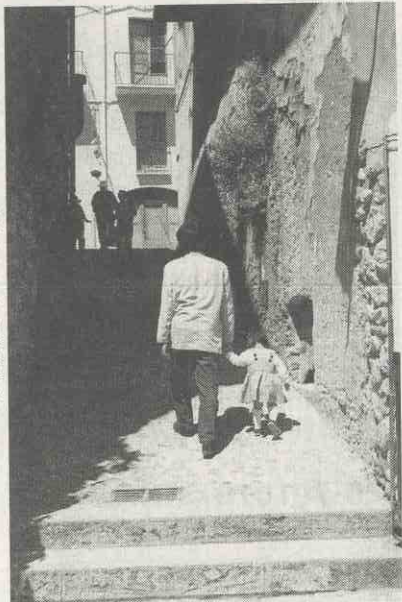
## 街の歴史や伝統 理解し生かす



中村雅子さん



「バルセロナのパティオ」



「バルセロナの街並み」

したスペイン・バルセロナ  
では、街が市民に愛されて  
いる。その基本的な都市計  
画は、カタルーニャの建築  
家の手で、街づくりが始ま  
ったとされている。街には  
「歩くための通り」があり、  
道路の半分以上が歩道とし

て真ん中にある。その散歩  
道には休憩のためのベン  
チ、木陰をつくる柑橘類の  
木々が周到に配置され、街  
全体に建築家・彫刻家など  
さまざまなアーティストの  
配慮が感じられる都市計画  
となっている。街が気持ち  
よく、優しい設計なので、  
多くの人が街に出てくる。  
実に都市が穏やかである。

自然に市民が自身の街に愛  
着や誇りを持っている。私  
はバルセロナ暮らしで「都  
市計画が街や人を優しくす  
る」ことを知った。

ていかなければならない。  
構想には、誠実な専門家  
をはじめ、建築家・法律家  
・経済専門家などの力を集  
結し「ソフト（心）構想」  
に時間と資金を掛けること  
が必要となっている。

# 住民に芽生える愛着

た上で、次なる都市像を描  
くことが、今後求められて  
いる。

そのための都市開発は、  
一見成功しているかのよう  
に見える都市のまねをする  
ことではなく、専門家の力  
を活用し、ハード（建物や設  
備）に払っていた費用から  
資金を生み出し、ソフト（構  
想）への費用に資金を回し

（建築家・インテリアデザ  
イナー 中村雅子）/ 株  
ジャール 03・53305・  
2773

行う。そして議論をすり合  
わせ、「調和の取れたアイ  
デンティティーのある都市  
像」を描き（Vision）、  
実行し（Act）、守り（k  
eep）、受け継ぐ（su  
stain）。このことが  
ソフトとハードのバランス  
を保った都市を残せる最良  
にして確実な方法といえる  
のではないか。